○えぞひるむしろヲ野尻湖ニ得タリ (久内清孝)

昨年8月、信州野尻湖ニ於テえぞひるむしろ (*Potamogeton heterophyllus* SCHREBER) ヲ得タ。本品ハ二形葉ヲ出現スル水草デ、水上葉ハおひるむしろ状ヲ呈スルモ、水中葉ハ狹細ニシテ、やなぎもノ幅廣キ如キ狀ヲ呈ス。本品ノ本州ニ於ケル產地ハアマリ知ラレテ居ナイ、依テ茲ニ錄ス。鑑定ハ原寛氏ニ依ル。本件ハ既ニ「採集ト飼育」V 卷 12 號ニ寫眞ヲ添ヘ報告シ置キタルモ重ネテ報ズ。

○たうごま (久内清孝)

たうごまノ種子、卽蓖麻子ノ近代的用途ニ就テハ、今更贅言ノ要ナキハ言フ迄モナイガ、理想國家論デ名高イ佐藤信淵ノ草木六部耕種法 (天保 3＝1832) ニ依ルト「一本二升以上を得べし」マタ「一反の地より六石の子を生ずるに至ては甚だ利潤廣大の作物なり」トアル。昨年ハ隣組ヲ通ジ、國內廣範圍ニ亙ル栽培ガ行ハレタ樣デアルガ、果シテドレ丈ノ收穫ガアツタデアラウカ、若シ信淵ノ記セシ量ニ達シナカツタトシタラ、ソレコソ努力ガ足リナカツタト云ヘ樣。

尙信淵ハ「此油は其性粘厚にして蠟を加へること他の油より減少すると雖ども其燭の流るゝこと無く且つ崩れ碎ること鮮し蠟燭の上品と爲る所以なり」ト近代人ノ知ラザル事實ヲ記シテ居ル。

更ニ「山奥に作ると雖ども禽獸絕て食せざる者なり故に俗民牛馬に作物を食れんことを畏て道路の側に植て防ぎと爲す者有り」ト附記シテ居ル。

序ニ記スガ、大川周明氏ノ日本精神硏究ハ讀書新聞 (福岡恒彥氏) ニ依レバ、眞珠灣攻擊ノ勇士ノ愛讀書ノ一ナリシ由デアルガ、同書中ニハ、信淵ヲ相當大キク扱ツテ居ル。マタ、六部耕種法本文中ニモ、渡邊崋山ガ門人中ニアツタ事ガ明記シテアル。

○槐 (久内清孝)

五雜爼卷十ニ「北人ニ於テ居宅ノ前一後ニ多ニ植フ槐柳ノ一類ヲ」トアル、其內ノ槐ハ云フ迄モナクゑんじゆデアツテ、中支以北ニハ今尙槐ノ植樹ヲ見ルト云フ。此花ハ淡黃色ノ蝶形花デ一種ノ香ガアル。天工開物 (上卷) ニ依レバ、未開ノ花ハ槐蘂ト云ヒ、水デ煮テ濾シ、乾シ搗テ餅ト成シ、染料ニ供シ、既ニ開花シタモノハ黃色ヲ帶ビテ居ル、之ニ石灰少許ヲ以テ晒拌シテ之ヲ藏スト云フ意味ノ事ガ書イテアル。此ノ花ノ成分ニ關スル化學的硏究ノ結果ニ就テハ WEHMER ノ Pflanzenstoffe ヤ服部靜夫氏ノ植物色素等ニ相當書イテアルガ Rutin ト云フ物質ガ知ラレテ居ル。此ノ木ハ古ク我國ニ渡來シ、槐ノ名ハ文學的ニモ名高ク、マタ道路樹トシテモ之ヲ見ル事稀デナク、井下清氏ノ綠地生活 (p. 117) ニハ「生長力遲く强健とは言ひ難いが、幹枝は强靱で、風害には强い」ト云點デ、道路樹トシテノ價値ヲ認メテ居ル。秋末果實ガ出來ルガ、其果肉ハ半透明濃厚粘著性デ、微ニ酸性ヲ帶ビ、多少特異ノ香ガアル、之ヲ水ニ浸シテ搗ルト泡沫ガ出デ、汚洗料トシテ役立ツ、蓋シ其粘著性物質ノ物理作用ニ基ク事、ふのりノ汚洗作用ト均シイ樣ニ思ハレル。